

第3章 研究の成果と今後の課題

第3章 研究の結果と今後の課題

1. 研究の結果

幼児期における社会情動的スキルの発達の様相を探ってきたところ、見えてきた点について、以下に記述する。下線部は各事例の考察で挙げられたキーワードである。

(1) 探求心について

繰り返し遊ぶ中で試行し発見している3歳児の姿は「面白いからもっとしたい」という姿だと考えられる。それと比べ4, 5歳児では、目的意識をはっきりもった、「思い描いたことを実現したい」「困ったことを解決したい」という姿であり、違いが見られる。目的意識が明確であることから、観察したり予想したりするような解決するための手立てが生まれている。

どの年齢にも共通しているのは、それらの姿が生まれる原動力が、「面白そう」と思い自ら対象に関わっていく好奇心、「もっと良いものにしたい」という向上心であるという点である。すなわち、幼児が好奇心をもつような環境の構成や、幼児の向上心を受け止め支える教師の援助が重要であると言える。

(2) 自己主張について

3歳児では自分のもっているものを欲しがる友達に対して、自分の所有物であることを意思表示する姿が見られた。4歳児では、自分の思いを友達に何とか伝えたいと思い何度もチャレンジする姿や、友達と自分の思いを実現させるために自分の経験を友達に説明する姿があった。相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりするその内容は、5歳児では、相談や提案をしたり、状況を理解して行動するなど、高度になっていることが分かる。3歳児は自分の思いを通すため、5歳児は皆が上手くいくために、それぞれ自己主張が行われており、4歳児ではその両方が見られたことも、3歳児から5歳児になるにつれ、自分だけの思いを主張することから次第に友達との関係の中で周りと自分のために思いを主張することが増えていくことを示唆している。

自己主張の方法は言葉だけでなく、身体を使って表現していることも多く、すなわち教師は言葉だけに囚われず、その身体表現から幼児の自己主張を汲み取る援助が重要になる。また、自己主張が生み出されるには、前提として信頼関係が重要である。5歳児では、新入園の幼児が新しい友達に対して思いを伝えることを躊躇している一方で、3歳児から関係性が出来ている5歳児同士が多様なコミュニケーションを取っている姿が見られた。教師は、教師と幼児の信頼関係、幼児同士の信頼関係を構築し、安心して自分の思いを主張できる環境をつくることが求められる。

(3) 自己抑制について

キーワードとしては、事実や相手の提案の受け入れ、自分の気持ちの切り替え等があった。全ての年齢で共通している3歳児のなかなか事実を受け入れることができなかつた姿と比べ、4、5歳児では代案を提案したり、相手の心情の理解から納得して行動したりする姿が見られており、5歳児に近づくにつれ相手意識が高まっていくことが示唆されている。しかし、本当に相手の提案に納得しているか、相手の気持ちを受け入れられるかどうか、そこには人間関係が大きく関わってくる。どのような人間関係の中にあるか、教師は的確に把握する必要がある。また、相手の提案に納得したり、相手に譲ったりした時の心の様子についても気を配り関わることも重要である。

2. 今後の課題

今年度は6、7月の事例のみを収集することとなった。次年度は通年での事例収集に取組み、幼児期の社会情動的スキルの発達の様相について明らかにしていきたい。また、今年度は広く「探求心」「自己主張」「自己抑制」が見られた場面の事例を収集したが、社会情動的スキルの発達の様相を明らかにするには、抽出児を設定し「探求心」「自己主張」「自己抑制」の発達の経緯を追っていくことが必要であると考え。また、その3つの視点での測定に取り組み、客観的データと合わせて考察していくことも必要であると考え。

研究の結果として、社会情動的スキルの発達を考える際に必要な環境の構成や教師の援助についても見えてきた。次年度も引き続き環境の構成や教師の援助についても、社会情動的スキルの発達を促す要因として明らかにしていく。

引用・参考文献

- 池迫 浩子・宮本 晃司（著） ベネッセ教育総合研究所（訳）（2015）. 家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成——国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆—— ベネッセ教育総合研究所
- 佐々木 晃（2018）. 0～5歳児の非認知的能力 事例でわかる！社会情動的スキルを育む保育. チャイルド本社
- 徳永 豊（2012）. 子どもの「社会的能力」と「情動調整力」を高める指導—「生きる力」の一つの軸として— 福岡大学研究部論集B. 社会科学編5
- ベネッセ教育総合研究所（2016）. 幼児期から小学生の家庭教育調査・縦断調査
- 堀越 紀香（2016）. 育ち・学びを支える力（社会情動的スキル）に関する試行調査. 国立教育政策研究所
- 無藤 隆・古賀 松香（編著）（2016）. 実践事例から学ぶ保育内容 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」. 北大路書房
- 文部科学省（2018）. Socitey5.0に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～. (pp2-9)